

【見本1】 重点事業評価シートの見直し

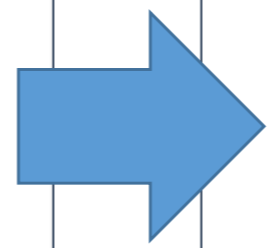
前回(平成25年度)

見直し案(平成26年度)

H25年度「群馬県文化振興指針」重点事業評価シート				
基本目標	文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与え、地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民一人一人が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができるような環境の整備を図ります。			
施策体系	2	県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備		
	(1)	芸術文化の振興		
	②	群馬県特有の文化の振興		
	郷土に対する誇りと愛着を深め、地域の絆を強め、豊かな郷土づくりにつながるよう、群馬交響楽団や上毛かるたなどの群馬特有の文化の創造、育成、発展に取り組めます。			
担当所属	事業名	25年度事業内容		
文化振興課	No.6 上毛かるた活用事業	【個別目標】 群馬の文化的風土の象徴として「上毛かるた」を再評価し、県民の郷土愛・群馬の歴史や文化に対する誇りを育みます。	25年度実績(成果)	
		群馬文化協会の意思を引き継ぎ上毛かるたを発行する。	【利用許諾】 上毛かるたに関する著作権利用申請の受付を平成26年1月から開始した。郷土への愛着や誇りを育むことを目的に利用する場合や、県のイメージアップのために利用する場合などに限り許諾している。 ■平成25年度許諾件数 26件 (情報関連3件、書籍・雑誌・その他印刷物9件、観光・旅行等1件、イベント関連7件、放送・放映等4件、その他2件)	【書籍販売】 (財)群馬文化協会から「上毛かるた」の著作権及び複製権の譲渡を受けたことから、平成25年12月に上毛かるた本体の販売を開始した。県ではこれまでも関連書籍として小学4年生向け副読本「上毛かるたで見つける群馬のすがた」と、一般向けガイドマップ「上毛かるたゆかりの地 文化めぐり」を発行しており、上毛かるたを通じて県民の郷土への愛着や誇りの醸成を推進している。 ■平成25年度販売実績 ①副読本 1,296部 ②ガイドマップ 2,331部 ③上毛かるた 9,786部
目標に対する成果を示す		上毛かるた及び関連書籍(副読本・ガイドマップ)の販売状況と利用許諾の状況		
担当所属による評価	25年度実績(成果)	【書籍販売】 (財)群馬文化協会から「上毛かるた」の著作権及び複製権の譲渡を受けたことから、平成25年12月に上毛かるた本体の販売を開始した。県ではこれまでも関連書籍として小学4年生向け副読本「上毛かるたで見つける群馬のすがた」と、一般向けガイドマップ「上毛かるたゆかりの地 文化めぐり」を発行しており、上毛かるたを通じて県民の郷土への愛着や誇りの醸成を推進している。 ■平成25年度販売実績 ①副読本 1,296部 ②ガイドマップ 2,331部 ③上毛かるた 9,786部		【利用許諾】 上毛かるたに関する著作権利用申請の受付を平成26年1月から開始した。郷土への愛着や誇りを育むことを目的に利用する場合や、県のイメージアップのために利用する場合などに限り許諾している。 ■平成25年度許諾件数 26件 (情報関連3件、書籍・雑誌・その他印刷物9件、観光・旅行等1件、イベント関連7件、放送・放映等4件、その他2件)
	今後の課題や目標	これまで(財)群馬文化協会が蓄えてきた「次代を担う子どもたちに、その郷土群馬をよく知り、そして郷土を愛するようになって欲しい」という精神を引き継ぎ、上毛かるたを通じて、歴史の先人たちの思いを、県民をはじめとした多くの方に知ってもらえるよう努める。 また、群馬らしい文化の象徴としての「上毛かるた」の価値を再評価し、群馬の文化や魅力をPRする素材として活用を図る。		今後の方向性 拡充
参考指標	県総合計画の目標・指標			
	【前年度】 24年度実績	【調査年度】 25年度実績	【最終年度】 27年度目標	財政課の評価
	①副読本「上毛かるた」で見つける群馬のすがたの販売部数 ②ガイドマップ「上毛かるたゆかりの地文化めぐり」の販売部数 ③「上毛かるた」の販売部数	①1,296部 ②2,331部 ③9,786部	①10,500部 ②15,500部 ③10,000部	【継続】 上毛かるたは県民に広く親しまれており、関連書籍を含めて継続的な販売実績があることから、継続
文化審議会意見	○ 権利が県に譲渡されたことで、上毛かるたは名実ともにパブリック(公共)な存在になったと思います。県民の財産として、大切に活用してください。 ○ 上毛かるたの札として覚えていても、その内容まではわからないという人も多いと思います。素材として素晴らしいものなので、子どもたちの学習の機会につなげて欲しいです。			

文章説明が長く、要点の把握に時間がかかる

自己評価は達成度のみ、結果だけで理由が説明されていない



平成26年度「群馬県文化振興指針」重点事業評価シート No.6					
基本目標	文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与え、地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民一人一人が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができるような環境の整備を図ります。				
施策体系	2	県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備			
	(1)	芸術文化の振興			
	②	群馬県特有の文化の振興			
	郷土に対する誇りと愛着を深め、地域の絆を強め、豊かな郷土づくりにつながるよう、群馬交響楽団や上毛かるたなどの群馬特有の文化の創造、育成、発展に取り組めます。				
担当所属	事業名	内 容			
文化振興課	No.6 上毛かるた活用事業	【個別目標】 群馬の文化的風土の象徴として「上毛かるた」を再評価し、その活用を図ることにより、県民の郷土愛・群馬の歴史や文化に対する誇りを育みます。	25年度実績(成果)		
		群馬文化協会の意思を引き継ぎ上毛かるたを発行するとともに、競技大会の開催を支援します。 【目標に対する成果を示す項目】 上毛かるた及び関連書籍(副読本・ガイドマップ)の販売状況	【書籍販売】 ○ 書籍販売が好調なことから、上毛かるたの発行部数を前年の倍にあたる20,000部に増やした。 ○ 副読本「上毛かるた」で見つける群馬のすがたを5,000部増刷した。 ○ 富岡製糸場と絹産業遺産群の世界記憶遺産登録を受けて、「上毛かるた」への注目も増え、多くの雑誌やテレビで特集が組まれたことから、絵札や読札の利用申請も93件あった。	【利用許諾】 上毛かるたに関する著作権利用申請の受付を平成26年1月から開始した。郷土への愛着や誇りを育むことを目的に利用する場合や、県のイメージアップのために利用する場合などに限り許諾している。 ■平成25年度許諾件数 26件 (情報関連3件、書籍・雑誌・その他印刷物9件、観光・旅行等1件、イベント関連7件、放送・放映等4件、その他2件)	
目標に対する成果を示す		上毛かるた及び関連書籍(副読本・ガイドマップ)の販売状況と利用許諾の状況			
担当所属による自己評価	事業の実績(成果)	事業費	6,023千円	資料	
	自己評価(達成度)	4:改善	書籍販売の目標を全て達成した。発行部数も増え、新たな活用も広がっている。		
	評価視点	有効性	★★★★	書籍販売の実績が目標を達成した。	
		効率性	★★★★	文化振興基金を財源とした上毛かるたの発行を開始した。	
		必要性	★★★★	学校と連携し郷土学習での活用促進を図っている。子育てと競技大会の開催を支援している。	
独自性	★★★★★	日本を代表する郷土かるたとして広く認知されており、群馬特有の文化の象徴として活用されている。			
今後の方向性	3:拡充	○ かるたの価値を再評価し、群馬の文化や魅力をPRする素材として活用する。 ○ 学習の機会を増やし、札に読まれた内容への理解を促進する。 ○ かるたの価値を守るため、著作権及び複製権を適正に管理する。			
参考指標	県総合計画の目標・指標				
	【前年度】 24年度実績	【前年度】 25年度実績	【調査年度】 26年度実績	【最終年度】 27年度目標	
	①副読本「上毛かるた」で見つける群馬のすがたの販売部数 ②ガイドマップ「上毛かるたゆかりの地文化めぐり」の販売部数 ③「上毛かるた」の販売部数	①2,451部 (累計 25,424部) ②3,059部 (累計 12,534部) ③—	①1,296部 (累計 27,875部) ②2,331部 (累計 15,593部) ③9,786部 (累計 9,786部)	①2,286部 (累計 30,161部) ②2,281部 (累計 17,874部) ③19,068部 (累計 28,854部)	
文化審議会意見	○ 上毛かるたは、群馬の歴史や産業について本当に大事なことが書いてある。そのことを県民が理解し、札に読まれた内容について、なんとなくでも説明できるくらいでないと、群馬への誇りや愛着には繋がらない。 ○ 県民にとって、上毛かるたが何の役に立っているのか、改めて確認する必要がある。				

箇条書きで読みやすく

評価の主な理由を記入

自己評価(達成度)だけでは、事業内容が見えづらいため、事業の適性を示す「評価視点」を追加し、補足

【見本2】 年次報告書の見直し

前回(平成25年度)

見直し案(平成26年度)

情報量はある反面、  
文字が多く読みづらい

基本目標 3 文化の継承及び発展を担う人材や団体の育成

県民の文化活動が自主的に行われ、継続し、発展していくために必要な人材や団体の育成に取り組めます。

＜＜主な施策＞＞

- 子どもたちが豊かな創造性、感性等を育てるため、できるだけ幼い頃から、子どもたちが多彩な優れた芸術、伝統文化や文化財に親しむ機会を充実するとともに、文化施設、文化団体等が実施する取組を促進します。
- 大学や専門学校、NPO法人などと連携しながら、若手クリエイターに専門的研修や作品の発表の場を提供することにより、次代を担う優れた人材を育成します。
- 本県の文化力の向上に資する新たな取組や事業を拡大する取組、幅広く多様な文化芸術を振興・普及する取組等を支援するとともに、特色ある取組の発信・発表の機会の充実を図ります。

＜＜主な取り組み実績と所屬評価＞＞

主な取り組み	主な実績	所屬評価
文化づくり支援事業 「群馬の文化」支援事業補助金(次世代育成事業) (文化振興課)	市町村、NPO、民間文化団体等の文化的な活動を支援するため、25年度に新たに補助金交付事業を立ち上げました。事業費の1/2を補助するもので、初年度は9月から3月までに実施する事業を対象に事業計画を募集し、6件の申請がありました。第三者委員会による事業評価等を経て、次世代を担う子どもたちが伝統文化や芸術に触れる機会の充実に繋がる取組として成果が期待できる6件を補助事業として採択しました。	4.0 ↑
はじめての文化体験 (文化振興課)	アマチュア文化団体を幼稚園・保育園等に派遣し、子ども向け公演やワークショップ等を開催しました。 (13団体を派遣・25事業を実施)	4.0 ↑
メディア芸術推進事業 (文化振興課)	本県におけるメディア芸術の振興と新しい才能の発掘を目指し、創作の場や鑑賞機会を提供するとともに、優れた作品を顕彰するため、第1回GUNMAマンガ・アニメフェスタを開催しました。 また、関連事業としてワークショップ「まんが教室」(参加者33人)やアニメ映画上映会(参加者42人)を併せて開催しました。	4.0 ↑
文化づくり支援事業 「群馬の文化」支援事業補助金(文化力向上事業) (文化振興課)	市町村、NPO、民間文化団体等の文化的な活動を支援するため、25年度に新たに補助金交付事業を立ち上げました。事業費の1/2を補助するもので、初年度は9月から3月までに実施する事業を対象に事業計画を募集し、17件の申請がありました。第三者委員会による事業評価等を経て、新たな取組または事業を拡大する取組として成果が期待できる10件を補助事業として採択しました。	4.0 ↑

＜＜施策の現状・課題・今後の対策＞＞

- 現状  
県民の自主的な文化活動を支援するため、群馬県文化振興基金を活用し、NPO法人や民間文化団体を対象とした補助金制度を新たに立ち上げました。文化力(文化の力で人々に元気を与え、地域社会を活性化させて魅力ある社会づくりを推進する力)の向上に資する先駆的、独創的な取り組みや、これまでの取り組みを拡大・発展させる取り組みに対し支援を行います。
- 課題と今後の対策  
文化団体や人材の育成には長期的、継続的な支援が必要となることから、新たな補助制度や、これまで継続してきた文化体験事業、移動音楽教室、新進芸術家の成果発表などの事業が、安定的に継続できるよう努めます。  
また、若者の活躍の場を増やし、自主的、先駆的、独創的な文化活動を積極的に支援します。

＜＜文化審議会意見＞＞

人材や団体の育成は長期的、計画的な支援が必要です。文化づくり支援事業やはじめての文化体験などの補助事業は、今後も継続した実施に努めてください。  
また、「まんが教室」など、作品発表やコンテストと併せてワークショップを開催して参加型イベントとする試みは、とても意義があると思います。今後の発展に期待します。

評価結果	平均4.0点 ※定時より改善
------	-------------------

誰が評価した結果なのか、あいまい

基本目標3 文化の継承及び発展を担う人材や団体の育成

県民の文化活動が自主的に行われ、継続し、発展していくために必要な人材や団体の育成に取り組めます。

■主な施策の取り組み状況

- 子どもたちが伝統文化や芸術に触れる機会を増やす活動を行っている民間の文化団体やNPO法人を支援するため、補助金を交付しました。(重点事業8)
- 幼稚園や保育園にアマチュアの文化団体を派遣する「はじめての文化体験事業」を実施し、子ども向けの公演やワークショップ開催しました。(重点事業9)
- メディア芸術分野の新しい才能を発掘するため、第2回GUNMAマンガ・アニメフェスタを開催し、創作や作品発表の場の提供、優秀作品の顕彰などを行いました。(重点事業10)
- 群馬県の文化力の向上につながる活動を行っている民間の文化団体やNPO法人を支援するため、補助金を交付しました。(重点事業11)

【文化づくり支援事業】



映画を撮影する学生

【GUNMAマンガ・アニメフェスタ】



マンガ部門の展示の様子

■自己評価結果

<平成26年度>

区分	点数	結果
自己評価(達成度)	3.3	横ばい
	／5点中	／前年度から

推進の状況	点数	結果
平成25年度	4.0	改善
平成26年度	3.3	横ばい
平成27年度		
平成28年度		
平成29年度		

■今後の課題と対策

- 子どもを対象とした文化事業が安定的に継続できるよう努めます。
- 新進芸術家の成果発表など、若者の活躍の場を増やします。
- 自主的、先駆的、独創的な文化活動を積極的に支援します。

【文化審議会の意見】

人材や団体の育成は長期的、計画的な支援が必要です。特に子どもを対象とした事業は、20年後、30年後を意識して取り組んでください。今後、この分野の取り組みが拡充されることを期待します。  
また、若者が中心となって活動している団体があれば積極的に支援し、これからの文化の担い手の育成につなげてください。

詳細は「重点事業評価シート」に記載があるので、簡略化

写真をいれて、取り組みをイメージしやすく

自己評価の結果と経過をわかりやすく

箇条書きで読みやすく